

添付⑤ モニタリング報告

第 1 期、第 2 期と同様に、各村で地雷回避教育活動を実施するにあたって KAPB 調査と呼ばれる調査手法を用いて事前調査を行い、またいくつかの村では事後調査を実施した。その調査結果をここに報告する。

1. KAPB 調査について（目的と手法）
2. 調査地域
3. 調査結果

1. KAPB 調査について

・目的

地雷回避教育が特定の地域・受益者に対して実施された場合、その結果として期待されるのは受益者の知識の変化(change in knowledge)と行動の変化(change in behavior)である。KAPB 調査とは Knowledge, Attitude, Practice, Behavior(あるいは Belief)の頭文字をとったもので、これら 4 項目をモニタリングするために地雷回避教育の実施前と実施後に無作為に抽出した受益者に対して質問を行い、その結果を見比べることで教訓(Lessons Learned)を導き出し、今後のプログラム作りの目安とするものである。

なお KAPB 調査は、あくまでもよりよいプログラムを作っていくための地雷回避教育活動の一環であり、地雷回避教育と知識・行動の変化との間に有意差や相関関係を見つけ出す統計学的調査ではないことを明記しておく。

・手法

KAPB 調査のために当会が使用した質問票は、当会のパートナー団体であった MAG (Mines Advisory Group)が過去数年にわたりアンゴラの他地域で使用してきたものを、同団体の許可を受けて当会用に作り直したものである。

同質問票ではアンゴラの公用語であるポルトガル語が使われているが、2004 年 11 月に MAG アドバイザーにより実施された地雷回避教育員に対するトレーニングで記入ミスや不明瞭な回答が頻発したため、ルンダスル州で広く話されている言葉、チョクウェ語バージョンを作成した。質問票は村落に関するパートと KAPB に関するパートに分かれている¹。質問内容については別添 3-3 を参照のこと。

調査を実施する際は、各村の人口の 5~10%に当たる住民を無作為に抽出し、質問票にしたがってインタビューを実施するが、各村の正確な人数を示す統計は存在しないのが実状であり、通常は家屋数の 5~10%にあたる 10 数人から 50 人弱の住民に対してインタビューを行った。

今回のモニタリングも第 1 期、第 2 期と同様に、質問票に記入された回答を「正しい認識」と「誤った認識」の 2 つにわけ、その割合をパーセンテージで表すことによって比較を試みた

¹第 1 期のモニタリング報告では、質問表の改定の必要性について触れたが、新しい質問表を使用した場合、第 1 期目の結果との比較が出来なくなるため、改定の必要性を認めつつも、同じ質問表を使用した。

2. 調査地域

(1) ルンダノルテ州カペンダカムレンバ郡シンジ地区

当会のルンダスル州西部の拠点カコロから北西に約 30 キロの一带。今期から活動地域に加わった地区。シンジ地区の 2 つの村、ナムルリ村 (Namuluri) とムアチフンガ村 (Muachihunga) にて実施した事前・事後調査を使用した。サンプル数は事前調査が 75 人、事後調査が 60 人であった。なお前項で無作為に抽出したとある通り、事前調査・事後調査において、必ずしも同じ人々に対して行ったものではないことを明記しておく。

(2) ルンダノルテ州ルバロ郡ルアング地区

サウリモーカコロ間の幹線道路の北東に位置する一带。この地区も今期から活動地域に加わった。ルアング地区の 3 村、カツンガ村 (Catunga)、チャナマクマ村 (Chana Makuma)、サムクアレ村 (Samucuale) で実施した。サンプル数は事前調査が 118 人、事後調査が 90 人であった。

3. 調査結果

今年度は全ての質問事項で事後調査の正答率が事前調査の正答率を上回った。また、正答率が事前調査より事後調査にて 20% 以上上昇する設問が数多くあった。

注目すべき事項として、設問 7 「安全地帯で地雷や不発弾を見つけたらあなたはどうすべきですか?」という問いでは、第 1 期目では正答率が事後調査では事前調査より 5%、第 2 期目では 8% 減少がっていたが、今期は 21% も増加した。

また、問 8 「地雷原にいると気づいた時、あなたはどうすべきですか?」という問いにおいても、第 1 期目、第 2 期目は正答率が事後調査で事前調査よりプラス 2~6% と微増であったのに対し、今期は 22% という大幅な伸びを見せた。

これは、これまでの教育活動を通して住民への教育内容を考察し、より住民に正しい知識が定着するよう改善を重ねてきた結果であると考えられる。例えば、今年度はバナーの数を増やし、使用頻度を多くし、視聴覚教材の効果の拡充を図った。また今年度新たに活動地域に加わったルンダノルテ州の地域は、これまで組織的な地雷回避教育が全くといっていいほど行われてこなかった地域であったため、効果が大きく現れたとも推測できる。

加えて、今期の調査で特徴的であったのは、事前調査での正答率が第 1 期・第 2 期の事前調査での正答率より低いものが多かったが、教育後の事後調査の正答率は第 1 期・第 2 期より高い値を示しているものが数多く見られた。

例えば、問 5 「地雷や不発弾はどの用にマークがしてありますか?」というマーキングに関する設問では、下記の表にあるように顕著な伸びを示した。

	事前調査	事後調査
第1期	60%	82%
第2期	57%	63%
第3期	32%	92%

また、問6「地雷のマークを見たらあなたはどうすべきですか?」という問いにおいても下記の表にあるように顕著な伸びを示した。

	事前調査	事後調査
第1期	60%	68%
第2期	67%	74%
第3期	35%	83%

昨年までの調査では「知識の変化」に比べ、「行動の変化」は上昇しにくいという課題があったが、今年度の調査結果では、問6・問7・問8にあるような「行動の変化」を必要とする設問で正答率の上昇が見られたことは大きな成果であると言える。昨年度のモニタリング報告において『「行動の変化」は外部（教育者側）からの一方的な働きかけでなく、住民の自発的な意志によってはじめて引き起こされると考えられ、「知識の変化」が「行動の変化」に繋がっていくためには、汚染地域の住民自身による現状認識・分析と、それに基づく解決策の模索が必要不可欠であると考えられる。したがって、地雷回避教育がより「行動の変化」へ繋がっていくよう今期から開始した地域参画の推進を3期目も活動の大きな柱として実施していく。』と述べたが、行動の変化を引き起こすために住民の参画を推進していく当会の方針は一定の効果があったのではないかと考えられる。

当会がこれまで行ってきた調査方法は今後同地域にて活動を行うCAPDCに引継ぎ、より住民のニーズに沿った効果の高い地雷回避教育を模索していく。またその経験を政府の地雷問題調整委員会や国際機関等とも共有し、よりアンゴラの実情にあった地雷回避教育の開発に貢献していく。

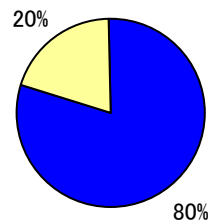
添付⑤-2：設問ごとの結果

【問1】 および【問2】は村の名前や位置、住民の名前・年齢・職業などの個人情報を知る質問であり、本報告からは除外した。

【問3】地雷・不発弾はあなたをどのようにしてしまいか知っていますか？

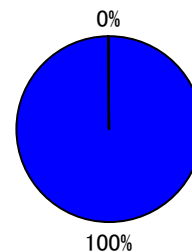
答： (正) 殺す・ケガをさせる
(誤) 何もしない・分からない

問3 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問3 教育後

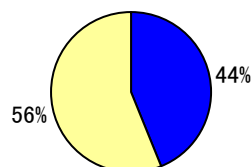


■ 正しい認識 □ 間違った認識

【問4】地雷や不発弾はどのような場所にありますか？

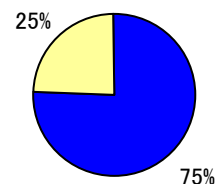
答： (正) 塹壕・基地・壊れた橋・川辺・水源・動物の死体の近く・壊れた車両・以前事故があった場所・棄てられた武器の近く・基地跡
(誤) 分からない

問4 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問4 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

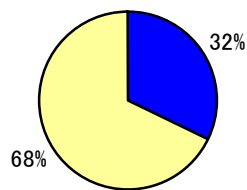
【問 5】地雷や不発弾はどの様にしてマークがしてありますか？

答：

(正) 国際標識・有刺鉄線・色を塗った木・交差した骨の上に頭蓋骨・赤白のテープ・
交差させた石・編んだ草・木に縛り付けられた布・棒の上に缶・石を積み上げたもの・
交差させた枝

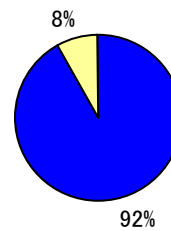
(誤) 分からない

問5 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問5 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

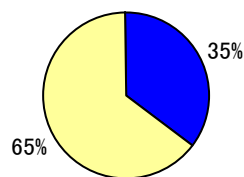
【問 6】地雷のマークを見たらあなたはどうすべきですか？

答：

(正) 近づかない・他の人に危険を伝える

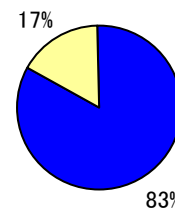
(誤) そのまま進む・無視する・家に持ち帰る・分からない

問6 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問6 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

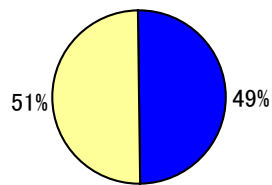
【問 7】 安全地帯で地雷や不発弾を見かけたらあなたはどうすべきですか？

答：

(正) 家族や友人に知らせる・関連機関に知らせる・手近なものを使って印をつける。

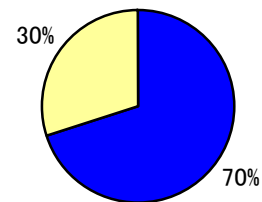
(誤) 逃げる・地雷や不発弾を関連機関に持っていく・地雷や不発弾を家に持ち帰る・分からない

問7 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問7 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

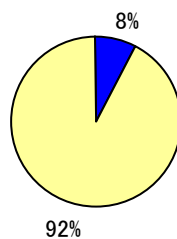
【問 8】 地雷原にいると気づいた時、あなたはどうすべきですか？

答：

(正) 動かずに助けを求める。

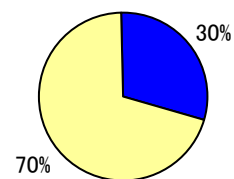
(誤) 安全な場所に移動する・気をつけて来た道に戻る・分からない。

問8 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問8 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

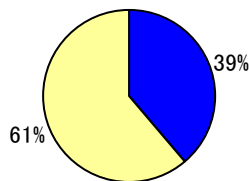
【問9】あなたの家族や友人が地雷原の中に入ってしまったら、あなたはどうすべきですか？

答：

(正) 専門家を呼ぶ / 探す・関連機関に知らせる・村に知らせに行く。

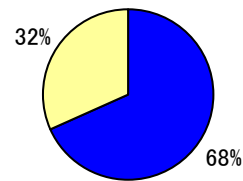
(誤) 助けに走る・逃げ出す・分からない。

問9 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問9 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

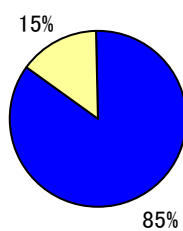
【問10】地雷はどの様になると爆発しますか？

答：

(正) おもちゃにして遊ぶ・部品を取り出そうとする・燃やす・踏みつける・取り外そうとする・ワイヤーを引く・動物が踏む。

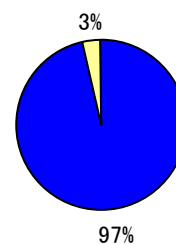
(誤) 分からない。

問10 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問10 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

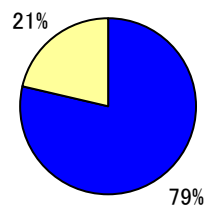
【問 11】不発弾はどの様にすると爆発しますか？

答：

(正) おもちゃにして遊ぶ・部品を取り出そうとする・燃やす・踏みつける・取り外そうとする・ワイヤーを引く・動物が触る。

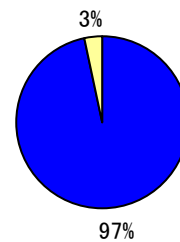
(誤) 分からない。

問11 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問11 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識

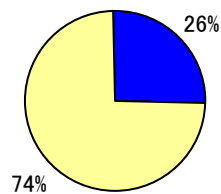
【問 12】どの様にすれば地雷や不発弾の事故を防げますか？

答：

(正) 自分の知っている道や既に使われている道を歩く・地元の人に危険な場所について聞く・危険と思われる場所には近づかない。

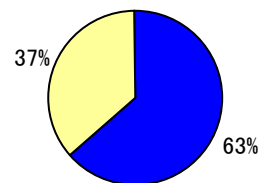
(誤) 分からない。

問12 教育前



■ 正しい認識 □ 間違った認識

問12 教育後



■ 正しい認識 □ 間違った認識